

月刊 都響

October 2022



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
10/8

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.399

会場：サントリーホール

指揮／ゲルゲイ・マダラシュ

ヴァイオリン／ヨゼフ・シュパチェク

リスト：ハンガリー狂詩曲第2番（約11分）

バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第2番 Sz.112（約39分）

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 op.88（約37分）

 東京都交響楽団

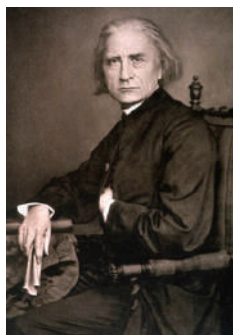
PROGRAM NOTES

本日のコンサートで指揮をするのは、ヨーロッパ大陸の中央にある国ハンガリー出身のゲルゲイ・マダラシュさんです。

前半では自国ハンガリーが生んだ大作曲家リストとバルトーク、そして後半はチェコを代表するドヴォルザークの曲を取り上げます。この3人の作曲家たちは、お祖父さん、お父さん、息子ほどの年齢差がありますが（リスト、ドヴォルザーク、バルトークの順に現代に近くなります）、彼らの生きた19世紀から20世紀前半にかけて、ヨーロッパ音楽の響きはどんどん充実し、複雑で厚みのある作品が生み出されていきました。今日はそんな3人の音楽をじっくりと楽しんでください。



リスト：ハンガリー狂詩曲第2番



フランツ・リスト（1811～1886）は花形のピアニストとして大活躍した人です。

今でこそピアニストがたった一人で2時間ほど演奏するコンサートやツアーは珍しくありませんが、それを最初に行ったのがリストです。《ハンガリー狂詩曲》は、もともとはピアノのために書かれた作品集で、全部で19曲からなります。ハンガリーのロマ族の音楽を思わせる哀愁のあるメロディーや情熱的なリズムを用い、リストが自国への愛情を示した作品となっています。本日演奏される第2番は、ドイツの音楽家カール・

ミュラー＝ベルクハウスという人がオーケストラ用にアレンジしたものです。曲は堂々とゆったりしたテンポに始まり、オーケストラのさまざまな楽器がメロディーを受け渡ししながら進みます。後半ではテンポアップし、華やかで明るい曲想となり勢いを増していきます。

バルトーク：ヴァイオリン協奏曲第2番 Sz.112

ベラ・バルトーク（1881～1945）は、若い頃にハンガリー中の村々を訪れて、農民たちの歌う民謡や踊りの曲などを楽譜に書き起こし、研究することに熱中していました。そうした民俗音楽は、やがてバルトークの自作品の中に取り入れられるようになります。今日演奏されるヴァイオリン協奏曲第2番は、バルトークが57歳のときに完成させた作品です。この曲の第1楽章には、熱心に研究し続けたハンガリー民謡がもつ生き生きとしたリズムや、独特なハーモニーの要素が息づいています。第2楽章は変奏曲スタイルです。ヴァイオリンが



美しい主題を奏で、それに6つの変奏が続く形となっています。舞曲風で勢いのある**第3楽章**は、第1楽章で使われたメロディーが少し形を変えて現れ、独奏ヴァイオリンが大いに活躍を見せながら全体を締めくくります。

ドヴォルザーク：交響曲第8番 ト長調 op.88

アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）は、現在のチェコの西部地方にあたるボヘミアと呼ばれた地域で生まれ育った作曲家です。交響曲第8番は、ドヴォルザークが48歳のときに、故郷ボヘミアの村に建てた夏の別荘で書いた作品です。美しい森と鳥たちのさえずりに囲まれながら、ドヴォルザークは幸せな気分で作曲に集中しました。**第1楽章**は光り輝くようなメロディーや、まるで鳥の声のような爽やかな響きが聞こえます。ゆったりとした**第2楽章**は弦楽器の語りかけるようなメロディーが印象的です。哀愁に満ちたワルツの**第3楽章**を経て、華やかなトランペットのファンファーレで開始する**第4楽章**では、チェロがゆったりとしたメロディーを聴かせる素敵な作品です。



文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 ゲルゲイ・マダラシュ Gergely MADARAS



©Benjamin Ealovega

ベルギー王立リエージュ・フィル音楽監督。ディジョン・ブルゴーニュ管弦楽団音楽監督（フランス）、サヴァリ交響楽団首席指揮者（ハンガリー）を歴任。

1984年ブダペスト生まれ。リスト・アカデミーおよびウィーン国立音楽大学を卒業。ヨーロッパ中に活躍の場を広げており、BBC交響楽団、リヨン国立管弦楽団などへ客演。古典派やロマン派のレパートリーを主とする一方で、現代音楽にも取り組む。2011～13年、ルツェルン・フェスティヴァル・アカデミーにおいてピエール・ブーレーズのアシスタント・コンダクターを務めた。オペラ指揮者としての評価も高く、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ハンガリー国立歌劇場などに登場。都響とは今回が初共演となる。

ヴァイオリン ヨゼフ・シュパチェク Josef ŠPAČEK



© Radovan Subin

1986年チェコ生まれ。ジュリアード音楽院でイツァーク・パールマンに、カーティス音楽院でイダ・カヴァフィアンとハイメ・ラレードに、プラハ音楽院にてヤロスラフ・フォルティーンに師事。2008年カール・ニールセン国際ヴァイオリン・コンクール第3位、2012年エリザベート王妃国際音楽コンクールのファイナリスト。

2011年、楽団史上最年少でチェコ・フィルのコンサートマスターに就任、2016年1月、「アソシエート・アーティスト」に就任。現在はソロ活動に専念している。ソリストとして、パリ管弦楽団、フィラデルフィア管弦楽団などから招かれ、フルシャ、ゲルギエフ、インバルらと共演。

使用楽器は、Ingles & Hayday から貸与された1732年製のガールネリ・デル・ジェス“Le Brun; Bouthillard”。

オーケストラ配置図（10月8日 プロムナードコンサートNo.399）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてね。

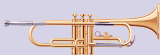
大太鼓・小太鼓
シンバル・タムタム
トライアングル
グロッケン



ティンパニ



トランペット



トロンボーン



テューバ



ホルン



クラリネット
バスクラリネット



ファゴット
コントラファゴット



フルート
ピッコロ



オーボエ
イングリッシュホルン



チェレスタ



ハープ



第一ヴァイオリン



第二ヴァイオリン



チェロ



ヴィオラ



コントラバス



指揮者



★コンサートマスター

※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。



© Rikimaru Hotta

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。